

	課題分析	授業改善策
国語	漢字学習はある程度定着している生徒もいるが、漢字の読み書きが不得意な生徒との二極化が見られる。文字を正しく書くことが苦手な生徒が多い。文章の読み取る力に課題がある。	漢字テストを定例化し、読み書き練習を徹底させ、達成感と学習進度を上げる。書写において、一画一画正確に書くことなどを重点的に指導する。新聞を用いたワークシートで読解力の向上を図る。
社会	教科書の重要語句や小学校での学習事項など基礎的・基本的な知識や技能の習得差が大きい。学力差による学習への理解度が学習自体への意欲や思考力・判断力・表現力等に影響を及ぼしている。	小テストや単元の復習等を行う。また、プロジェクターでの資料の投影、タブレットでの調べ学習やeライブラリの課題等、ICT機器を活用して、理解度の低い生徒に適切な支援を行い、意欲や思考力に結び付ける。
数学	応用問題も様々なアプローチから問題を考えることができる生徒がいる一方で、そもそも基礎・基本的な計算ができない生徒も多い。また、基礎的な計算（四則計算、文字式の計算、一次・連立・二次方程式、展開・因数分解）ができていないため数学に対して苦手意識をもつ生徒が多い。	教科書の導入だけではなく、生徒の実体験に近い事柄を各単元の導入に多く取り入れることで、興味や関心をもちやすくする。生徒が主体的に学習できるよう話し合い活動を積極的に取り入れ、多様な解法をもつ課題を取り扱う。
理科	積極的に授業や観察・実験には意欲的に参加する生徒が多い。その一方で、実験分析力や話し合いながら考えをまとめていく力がやや弱く、文章にまとめる力も発展途上である。	考察を論理的に組み立てられるように、既出の知識確認や実験結果の共有、話し合いの機会を多く設ける。それを促進させるために、ICT機器（デジタル教科書など）や演示実験を用いて、視覚的に分かりやすくする。
音楽	授業は発言も多く意欲的に取り組む生徒が多い。歌唱に対する積極性もあるが、各クラスに少なからずいる音楽が苦手な生徒に対しても、表現の楽しさを感じられる指導の工夫が必要である。	楽曲のもつ諸要素を理解し、歌唱表現に行かせるようにすると共に、発声に力を入れ美しく力強いハーモニーを作る技能を身につけていく。
美術	課題ごとに個々の制作状況を把握し、改善を図ってきたが、努力を要する生徒やなかなか制作が進まない生徒に寄り添いながら、技能や発想の能力を高めていく指導の工夫が必要である。	生徒が自主的に制作中の質問や要望等を記入する、制作ノートを活用し、授業中の観察だけでは不十分な個々のつまづきの状況を把握する。また、個に応じた資料を効果的に活用し、発想豊かに育めるよう指導する。
保健体育	基礎体力、基本動作の定着に差が出てきている。体力向上が著しい時期なので、運動量の確保をすること、最低限身に付けさせたい基礎体力を補強運動で定着させる必要がある。また、男女共修に伴う授業方法に工夫が必要である。	授業の進め方は、毎時間繰り返し行える内容にするとともに、運動時間を確保する。また、生徒の基礎体力を確認しながら、補強運動の種類や回数を設定をし、毎時間取り組ませることで定着を図る。性差による技術、体力の違いを踏まえながら相互に高め合えるよう授業を行う。
技術家庭	製作において、技能の低い生徒や分からない点を自ら聞くことのできない生徒に寄り添い、技能や主体性の向上に結び付く指導の工夫が必要である。（家庭）身の回りの生活から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、具体化するといった課題を解決する力を高めていく指導の工夫が必要である。（技術）	製作カードに本時の目標や自らの課題点を書き、進度における差を意識させる。また、個に応じて声掛けや、実物見本などの視覚からの指導も取り入れた指導を行う。（家庭）習得した知識および技術を活用できるような身近な生活場面を想定したり、互いの考えを伝え合い、高め合う協働的な学びの場面を設定したりすることで課題を解決する能力の定着を図る。（技術）
外国語	おおむね授業への参加意欲は高く、特に聞く・話すことに関しては、積極的に取り組む姿勢が見られるが、書くことについては努力を要する生徒が一定数いる。	書くことに対して抵抗感が生まれないように、適宜選択肢や単語のレベルからスモールステップで取り組めるように工夫する。また、書きたいという意欲を引き出せるよう生徒にとって身近な話題をなるべく取り入れていく。